

環境王国「いわて」を担う
いわて第2クリーンセンター

環境活動レポート 2015

(平成26年度実績報告)

対象期間 2014年4月1日～2015年3月31日



2015年1月6日 正門前にて

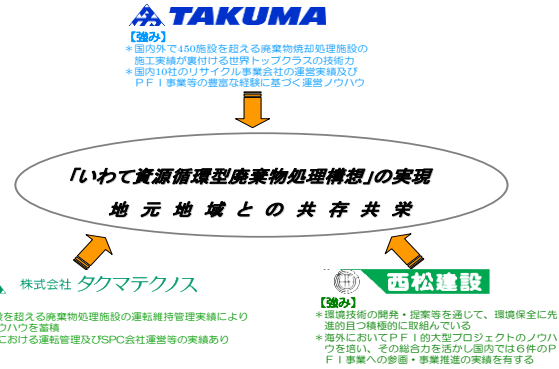
いわて県北クリーン株式会社

代表取締役 松島 義治

発行日 2015年4月30日

もくじ

- 1. 会社概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
- 2. 事業概要・・・・・・・・・・・・・・・・ P3
- 3. 施設概要と特徴・・・・・・・・・・・・ P4
- 4. 許可品目・・・・・・・・・・・・・・・・ P6
- 5. 環境方針・・・・・・・・・・・・・・・・ P7
- 6. 組織図・・・・・・・・・・・・・・・・ P8
- 7. 役割と責任・権限・・・・・・・・・・・・ P8
- 8. 環境目標と活動実績・・・・・・・・・・・・ P9
- 9. 環境活動の結果と評価・・・・・・・・・・・・ P9
- 10. 代表者による全体の評価と見直し・・・・ P14
- 11. 環境保全活動・・・・・・・・・・・・ P15
- 12. 資格・免許・認定・・・・・・・・・・・・ P19

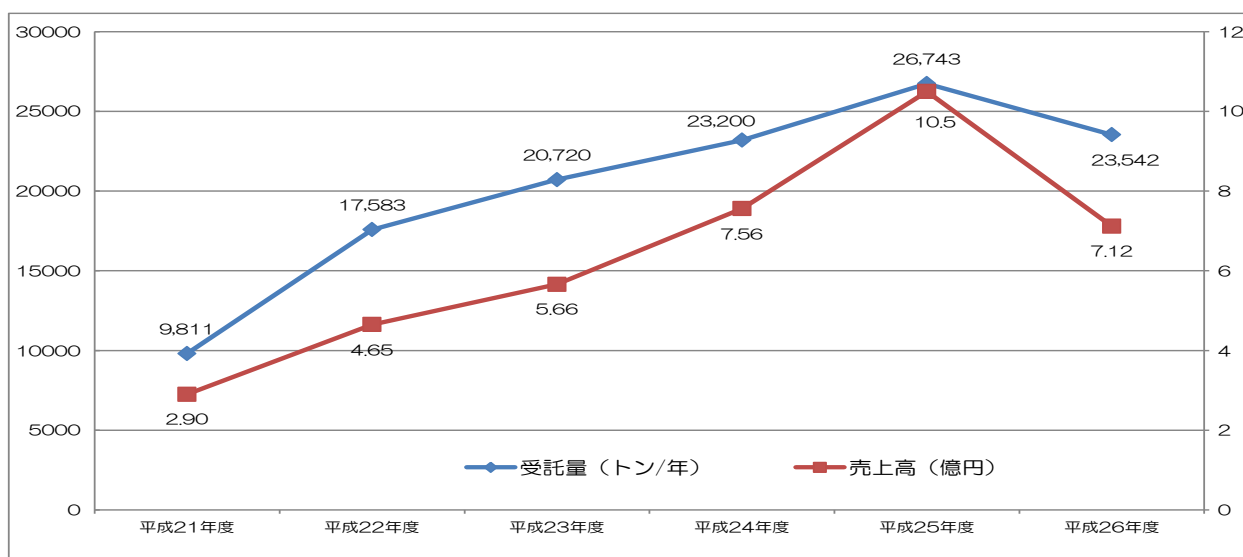


1. 会社概要

会社名 : いわて県北クリーン株式会社
 施設名 : いわて第2クリーンセンター
 所在地 : 〒 028-6505 岩手県九戸郡九戸村大字江刺家第20 地割 48 番地 34
 代表者 : 代表取締役 松島 義治
 業務開始 : 平成 21 年 4 月 (設立:平成 18 年 4 月)
 資本金 : 9,000 万円
 株主 : 株式会社タクマ ・ 株式会社タクマテクノス ・ 西松建設株式会社
 事業内容 : 産業廃棄物の中間処理 ・ 一般廃棄物の中間処理
 従業員数 : 33 名 (平成 27 年 4 月 1 日現在)
 事業面積 : 約 36,000 ㎡
 環境管理責任者 : 村田 英敏 ・ コミュニケーション窓口 : 千葉 明
 TEL 0195-42-4085 FAX 0195-42-4550
 Mail info@iwate2cln.co.jp URL <http://www.iwate2cln.co.jp>

会社の沿革：

- 平成18年 4月12日：株式会社タクマ、株式会社タクマテクノス、西松建設株式会社の出資により設立
- 平成18年10月30日：環境大臣による廃棄物処理センター指定
- 平成19年 3月29日：産業廃棄物処理施設の設置許可取得
- 平成21年 1月 7日：産業廃棄物処理施設の処分業許可取得（許可番号：00329146787）
- 平成21年 1月 7日：特別管理産業廃棄物処理施設の処分業許可取得（許可番号：00379146787）
- 平成21年 4月 1日：事業開始
- 平成21年 6月 8日：一般廃棄物処理施設の処分業許可取得
- 平成21年 6月30日：基準適合産業廃棄物処理業者認定（中間処理★★取得）
- 平成22年 2月15日：エコアクション21取得
- 平成24年 8月30日：いわて地球環境にやさしい事業所認定 ★★★取得
- 平成26年 1月 7日：産業廃棄物処理施設の処分業許可更新取得（有効期限：平成31年1月6日）
- 平成26年 1月 7日：特別管理産業廃棄物処理施設の処分業許可更新取得（有効期限：平成31年1月6日）
- 平成26年 7月23日：産業廃棄物処理施設設置許可取得（破碎中間処理施設設置）
- 平成26年11月11日：産業廃棄物処分業の事業範囲の変更（破碎中間処理追加）



2. 事業概要

本事業は、岩手県を発注者とするPFI事業で運営を行っています。岩手県の「自県内処理の推進」及び「資源循環型社会の形成」に基づき、多種多様な廃棄物を適正に処理するための「焼却設備」・「溶融設備」があり、あらゆる性状に対応が可能となっています。

処理施設は万全の環境保全対策が施された処理システムにより、排ガス・燃え殻及びばいじん等の処理も、安定的かつ安心な施設となっています。

溶融処理により発生するばいじんは、可能な限り山元還元（有価金属として再利用）により再資源化するとともに、溶融スラグは有価物として再資源化を図ります。

3. 施設概要と特徴

施設名称 : いわて第2クリーンセンター
 設置規模 : ローターキルン&ストーカ炉 87.9 t/日 ×1 基
 燃料式表面溶融炉 13t/日 ×1 基
 ボイラ型式 : 三胴式廃熱ボイラ
 最高使用圧力 : 3.30 MPa
 常用使用圧力 : 2.90 MPa
 蒸気温度 : 241℃
 最大蒸発量 : 10.2 t/h
 タービン形式 : 復水タービン
 発電出力 : 840 kW



排ガス規制値

種類	法規制値	自主管理値
ダイオキシン類 (ng-TEQ/m ³ N)	1.0	0.1
SO _x (ppm 以下)	3,761 (K 値 17.5)	50 (K 値 0.25)
NO _x (ppm 以下)	250	100
塩化水素 (ppm 以下)	430	80
ばいじん (g/m ³ N 以下)	0.08	0.02

多種多様な廃棄物（特管物を含む）の適正処理

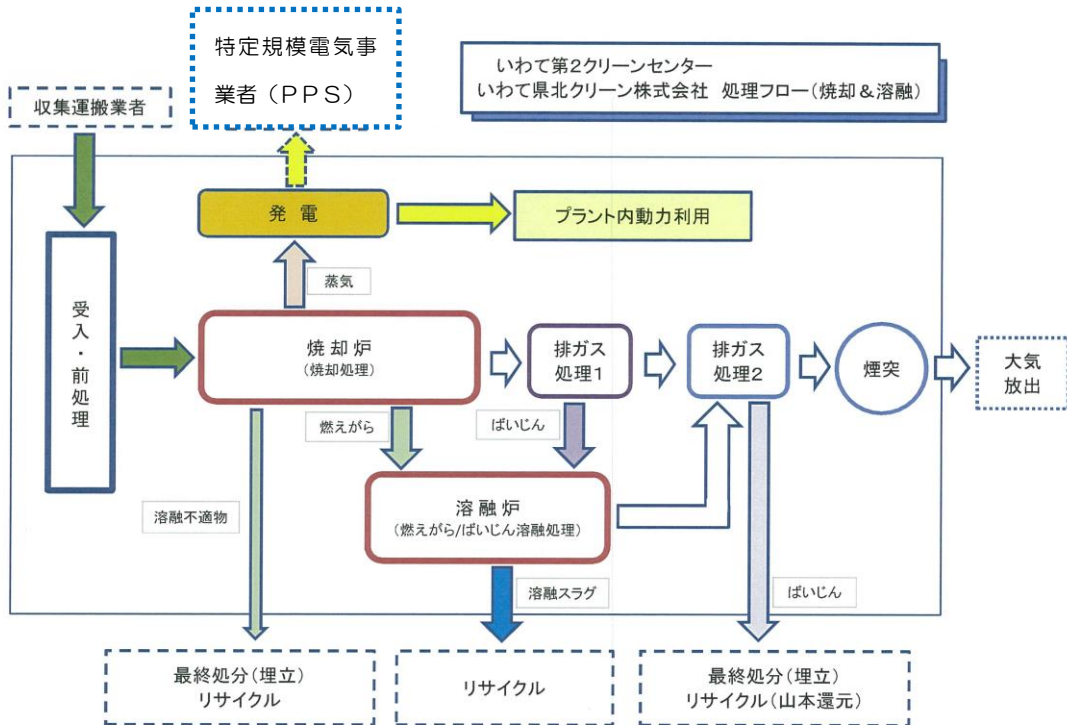
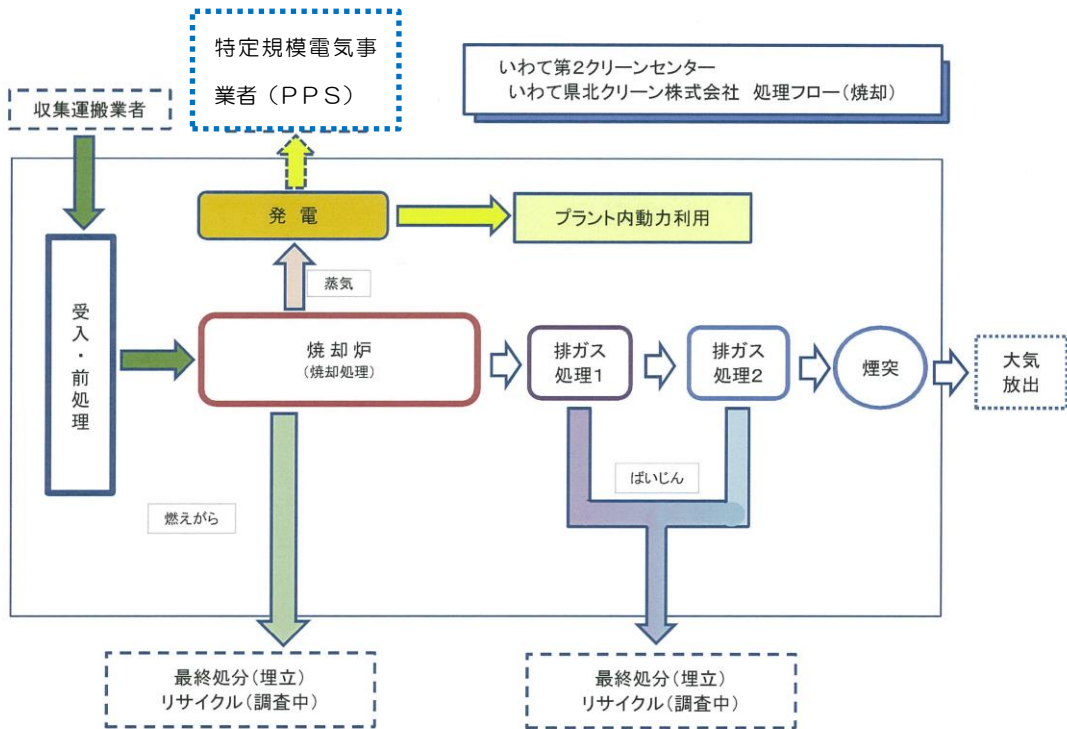
- ◎ 高温処理による完全燃焼と無害化
 - ・ 焼却炉内温度 850℃以上（自主管理値） ※法規制値 800℃以上
 - ・ 溶融炉内温度 1300℃以上

省エネ・資源リサイクルの促進

- ◎ 蒸気タービン発電機 Max840kW（発電設備） ※廃熱ボイラ蒸気利用
施設内で使用する電力の全量供給及び余剰電力の売電
- ◎ 白煙低減用排ガス加熱器（煙突からの蒸気白煙を低減させる設備） ※廃熱ボイラ蒸気利用
排ガス中の水蒸気によって煙突から出る白煙を低減
- ◎ 溶融スラグを路盤材・建設資材等に利用することでの資源リサイクル
- ◎ 焼却灰・溶融飛灰は精錬会社に有効的に鉱物類を回収することでの資源循環の形成

周辺環境への配慮

- ◎ 排ガスは環境にやさしい管理値を設け、地域環境保全に配慮
- ◎ クローズドシステムによりプラント排水及び生活排水は施設内において再利用し、場外へは無放流
- ◎ 騒音・振動の発生を抑制した設備の導入及び防音材設置や振動対策床基礎の導入
- ◎ 臭気を外部に放出させない換気システム



4. 許可品目

焼却施設

○産業廃棄物

- ① 廃プラスチック類
- ② 廃油
- ③ 廃酸
- ④ 廃アルカリ
- ⑤ 木くず
- ⑥ 紙くず
- ⑦ 繊維くず
- ⑧ 汚泥
- ⑨ 動植物性残渣
- ⑩ 動物系固形不要物
- ⑪ ゴムくず
- ⑫ 金属くず（他の性状と一体となり分別できないものに限る。）
- ⑬ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず（医療系廃棄物に限る。）



○特別管理産業廃棄物

- ① 廃油
- ② 廃酸
- ③ 廃アルカリ
- ④ 感染性産業廃棄物
- ⑤ 汚泥

溶融施設

○産業廃棄物

- ① 廃プラスチック類
- ② 汚泥

○特別管理産業廃棄物

- ① 汚泥

破碎施設

○産業廃棄物

- ① 廃プラスチック類
- ② 木くず
- ③ 紙くず
- ④ 繊維くず
- ⑤ ゴムくず
- ⑥ 金属くず
- ⑦ ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず及び陶磁器くず
- ⑧ がれき類



環境方針

《基本理念》

いわて県北クリーン株式会社は、積極的に熱利用を行い、廃棄物の未利用エネルギーを効率的に利用することで CO₂ を削減し、地球温暖化の防止や循環型社会の形成に貢献します。そのためにエコアクション 21 のシステムを導入し環境活動を展開します。

《行動指針》

1. 環境にやさしい事業運営に努めると共に、地域社会に貢献する企業をめざし活動に取り組みます。
2. 事業活動に係わる環境影響のうち、以下の項目を環境管理項目として取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素の排出量削減に努めます。
 - (2) 廃棄物の削減及びリサイクルに努めます。
 - (3) 使用する水の抑制に努めます。
 - (4) グリーン購入の推進に努めます。
 - (5) 化学物質の削減に努めます。
3. 事業活動に関連した環境関連法規を遵守します。
4. 地域との連携を密にし、環境保全活動に積極的に参加します。
5. 環境方針は社内に掲示し、教育及び会議を通じ社員に理解を深め、積極的に取り組みます。

制定：平成 22 年 5 月 1 日

改定：平成 27 年 5 月 15 日

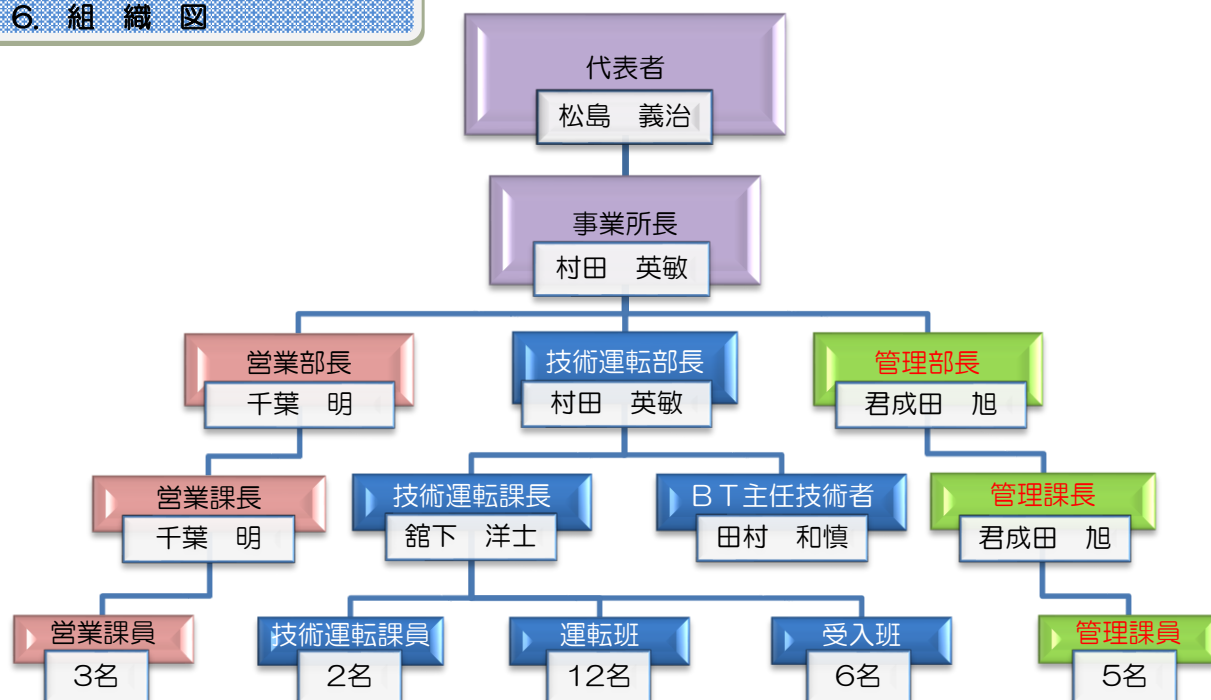
いわて第 2 クリーンセンター

いわて県北クリーン株式会社

代表取締役 **松島 義浩**



6. 組織図



7. 役割と責任・権限

役割	担当者	役割と責任・権限
代表者	代表取締役	①環境管理責任者の任命 ②環境管理責任者から報告を受けて全体の見直し ③取組に対する資源を用意
環境管理責任者	事業所長	①代表者に代わって環境管理システムを構築し、継続的に運営 ②関連法規の把握をして代表者に情報を報告
E A21 事務局	事業所長 または代務者	①環境管理責任者に代わってデータ収集 ②各部署へE A21 の達成目標を周知 ③各部署の実施状況を把握し、環境管理責任者へ報告 ④必要な教育訓練の計画及び実施
防災責任者	事業所長	①防災計画の立案 ②火元責任者の選任
安全運転管理者	管理部長	①安全運転のために必要な教育・訓練の実施 ②エコドライブの積極的な推進
各部門長	各部長	①各取組み項目の把握及び実施状況の確認 ②各部署へ取組み項目の達成状況を周知 ③必要に応じて各取組み項目の是正及びその指示 ④環境配慮・緊急事態に関する予防措置
社員	全社員	①各実施項目に対して積極的に取組むように努める ②環境保全活動への積極的な参加

8. 環境目標と活動実績

各年度目標値に対する達成度

目標達成
 目標未達
 ※達成判定は目標値±10%範囲とする

	単位	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
1 受電電力量の削減	kWh/t	165.0	81.6	61.3	23.3	9.1	5.9
2 重油使用量の削減	L/t	16.8	4.0	3.1	1.2	0.95	1.07
3 軽油使用量の削減	L/t	1.70	1.74	1.77	1.85	1.97	2.30
4 ガソリン使用量の削減	L/t	—	—	—	0.43	0.36	0.36
5 水資源投入量の削減	m ³ /t	0.85	0.83	0.63	0.75	0.63	0.57
6 CO ₂ 排出量の削減	kg-CO ₂ /t	113.0	57.4	44.0	20.3	13.5	13.0
7 発電電力量の向上	kWh/t	189.0	157.1	119.2	152.0	164.4	209.6
8 廃棄物受託量の増加	t/年	—	—	20,723	23,168	26,743	21,542
9 消石灰使用量の削減	kg/t	32.9	35.9	27.0	25.5	27.8	25.6
10 グリーン購入率の向上	%/年	—	—	—	73.1	63.3	71.5

9. 環境活動の結果と評価

「受電電力量の削減」

平成 26 年度 目標 12.0kWh/t

平成 25 年度 実績 5.9kWh/t

達成率 150.8%

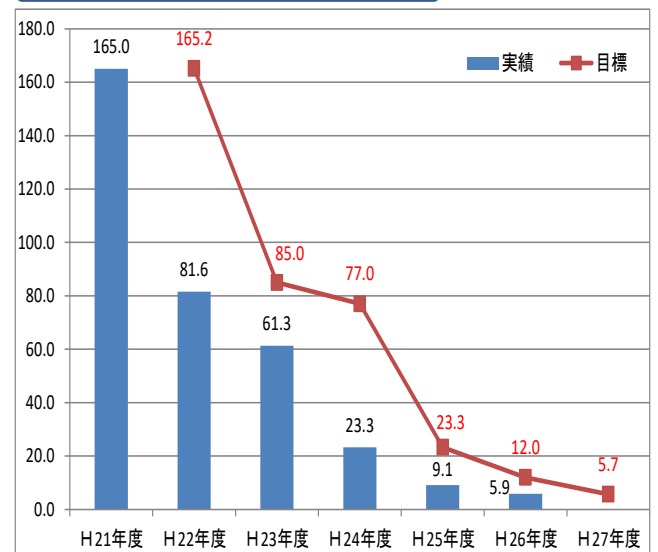
取組内容

投入ゴミのカロリーバランスを考え、プラント施設の現状を把握し、出来る限り発電量を上げる運転に努める

活動結果と評価

投入ゴミの性状を把握し、発電量を上げる運転に努めることができた

受電電力量の削減 (kWh/t)



<平成 27 年度 目標 5.7kWh/t>

取組内容

安定的な発電により受電電力を削減できるように投入ゴミの熱量を均一化する

「 重油使用量の削減 」

平成 26 年度 目標 1.0L / t

平成 26 年度 実績 1.07L / t

達成率 93.0%

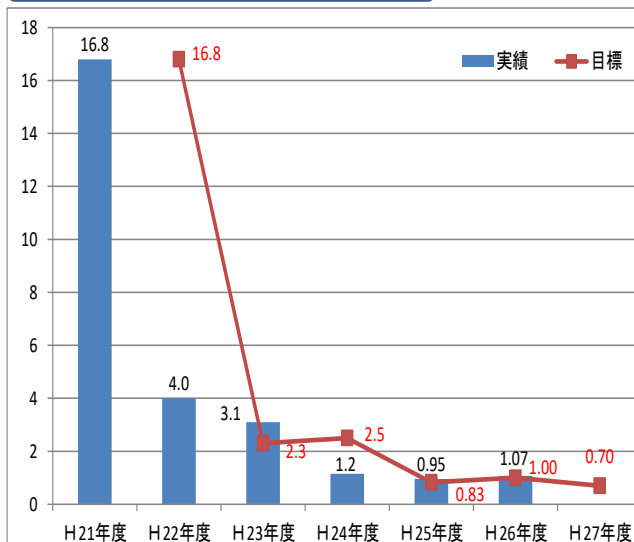
取組内容

- ①焼却炉立上げ使用重油 2000L/回以内
- ②炉内温度低下の際は廃油を有効的に使用し、活動内容を全員が周知して取り組む

活動結果と評価

立上時の使用重油を総体的に 2000L/回程度に抑えることができた。焼却炉の連続運転により、立上下げ回数が減ったことも大きかった。

重油使用量の削減 (L / t)



<平成 27 年度 目標 0.70L / t >

取組内容

- ①炉内温度低下時は廃油を有効的に処理することで、助燃用の重油使用量を削減する

「 軽油使用量の削減 」

平成 26 年度 目標 1.75L / t

平成 26 年度 実績 2.30L / t

達成率 68.6%

取組内容

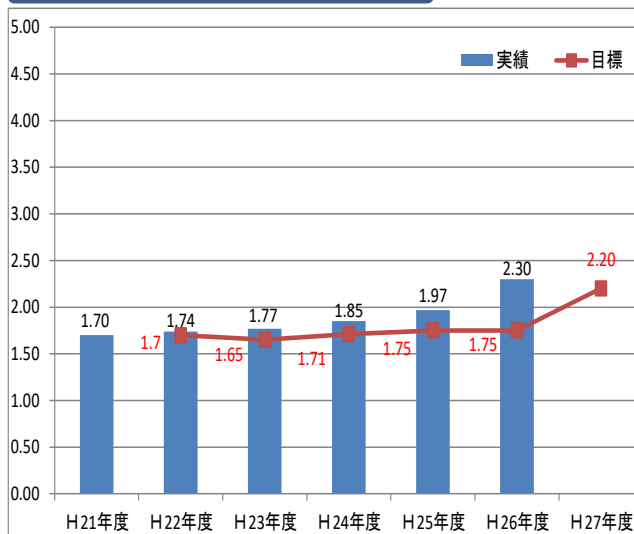
- ①無駄なアイドリングストップ
- ②空ぶかし運転禁止と適正な暖気運転の実施

活動結果と評価

アイドリングストップが徹底されていなかった。重機の利用率が改善されなかった。燃焼式破砕機導入により軽油使用量が増加した。

原因は幾つかあるが、改善の余地があると判断する。

軽油使用量の削減 (L / t)



<平成 27 年度 目標 2.2L / t >

取組内容

- ①作業効率を上げて重機使用時間を短縮
- ②小まめな点検清掃で重機を適正に保ち燃費を向上

「 ガソリン使用量の削減 」

平成 26 年度 目標 0.38L / t
 平成 26 年度 実績 0.36L / t
 達成率 105.2%

取組内容

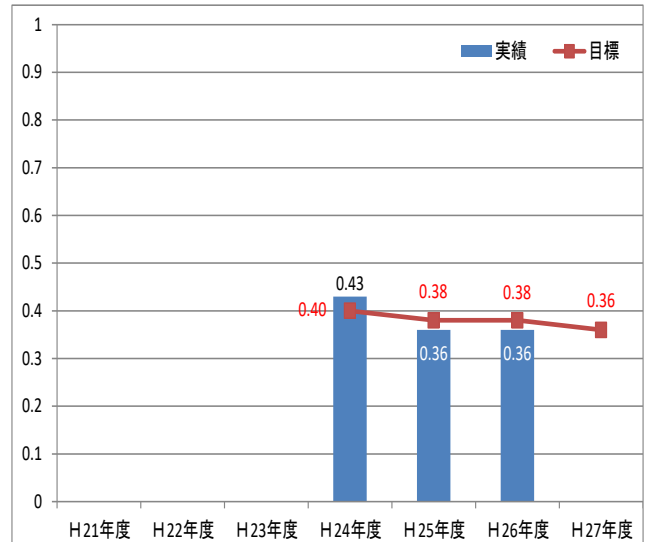
- ①社用車の使用時は時間にゆとりを持って行動し、エコドライブを継続する
- ②エコドライブ講習の受講
- ③ハイブリッド車の導入検討

活動結果と評価

エコドライブ運転の意識が向上した結果と判断する

※実績集計は平成 24 年度から実施

ガソリン使用量の削減 (L / t)



<平成 27 年度 目標 0.36L / t >

取組内容

計画的な運行計画により、無理な運転を避けたエコドライブ運転に努める

「 水資源投入量の削減 」

平成 26 年度 目標 0.70L / t
 平成 26 年度 実績 0.63L / t
 達成率 118.3%

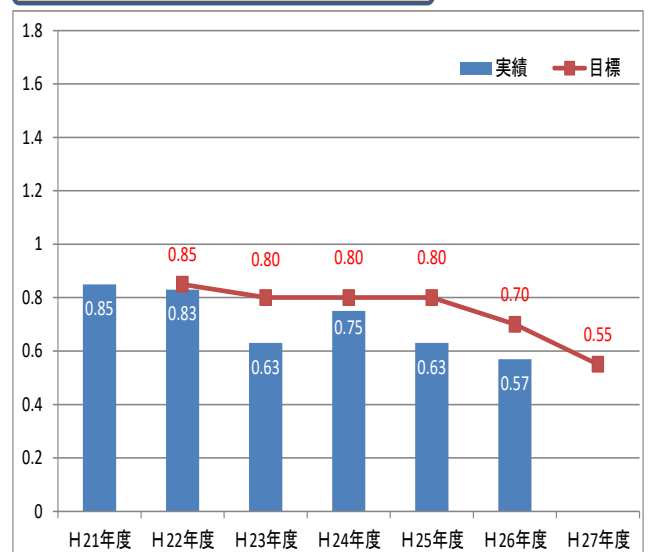
取組内容

- ①上水の代用となる水を利用する
- ②各水槽レベルの監視及びプラント排水ポンプ稼働状況確認の徹底

活動結果と評価

調整池水の有効利用により大幅に目標と達成することができた。継続して運用を行うこと。

水資源投入量の削減 (m³ / t)



<平成 27 年度 目標 0.55L / t >

取組内容

- ①調整池水の利用継続と水槽レベル監視強化

「 温室効果ガスの削減 」

平成 26 年度 目標 15.0kg-CO₂/t

平成 26 年度 実績 13.0kg-CO₂/t

達成率 113.4%

取組内容

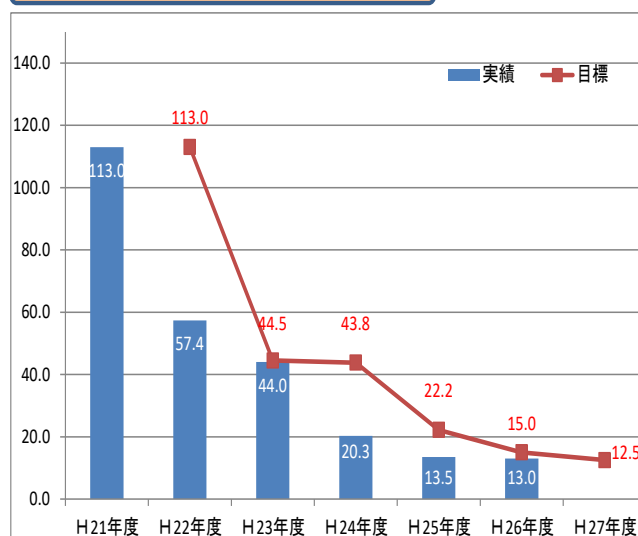
- ①重機のアイドリングストップと不必要な照明の消灯
- ②燃料使用量の削減

活動結果と評価

A 重油の使用量を削減できたことが大きく、目標を達成できた。

受電電力量の削減にも注力すること

CO₂排出量の削減 (kg-CO₂/t)



<平成 27 年度 目標 12.5kg-CO₂/t >

取組内容

- ①重油や軽油使用量の削減と受電電力量の削減

「 発電電力量の向上 」

平成 26 年度 目標 148.0kWh/t

平成 26 年度 実績 209.6kWh/t

達成率 141.7%

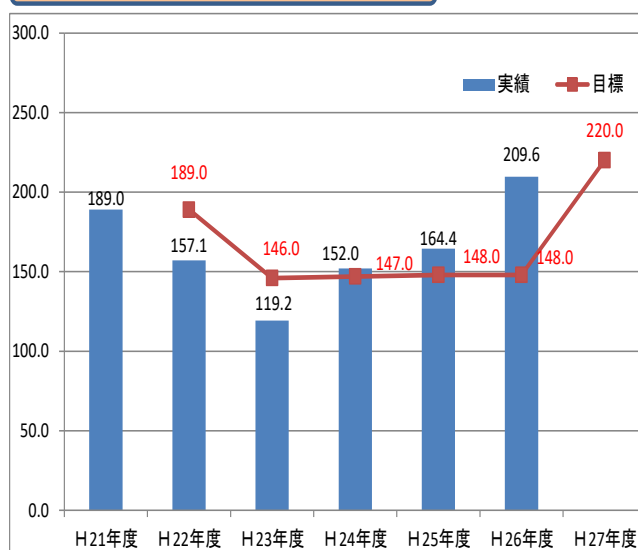
取組内容

- ①焼却炉内へ投入するピットのゴミカロリーを予測し、供給速度を適切に見極めて蒸発量を 7.5 t/h 以上で保つように監視・操作する

活動結果と評価

蒸発量を安定化させるような監視を行った結果であると判断する。

発電電力量の向上 (kWh/t)



<平成 27 年度 目標 220.0kWh/t >

取組内容

- 廃棄物の性状を均一化させるためのゴミ攪拌を定期的に行う

「 廃棄物受託量の増加 」

平成 26 年度 目標 27,000 t /年
 平成 26 年度 実績 21,542 t /年
 達成率 79.8%

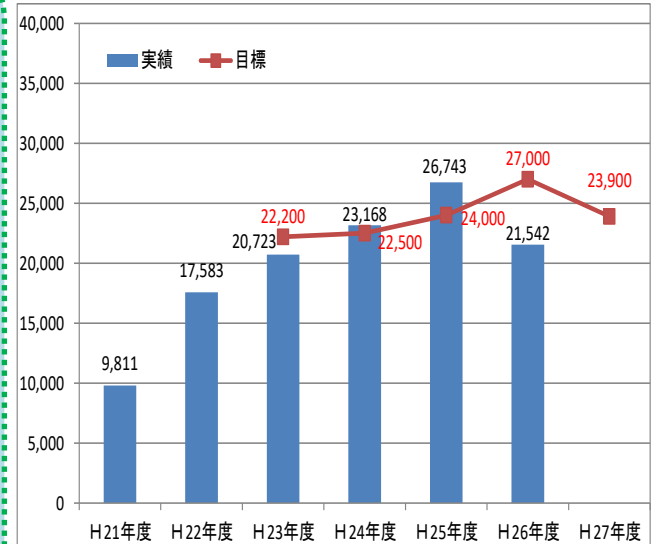
取組内容

①スポット案件等の確実な受注により目標重量を確保する

活動結果と評価

大口案件の受注が低迷した。破碎機的能力不足による搬入調整と冬季の廃棄物流通量が減少したことが起因して大きく未達となった

廃棄物受託量の増加 (t/年)



<平成 27 年度 目標 23,900 t /年>

取組内容

継続的な顧客営業と新規顧客獲得へ注力する

「 消石灰使用量の削減 」

平成 26 年度 目標 25.5 kg / t
 平成 26 年度 実績 25.6 kg / t
 達成率 99.6%

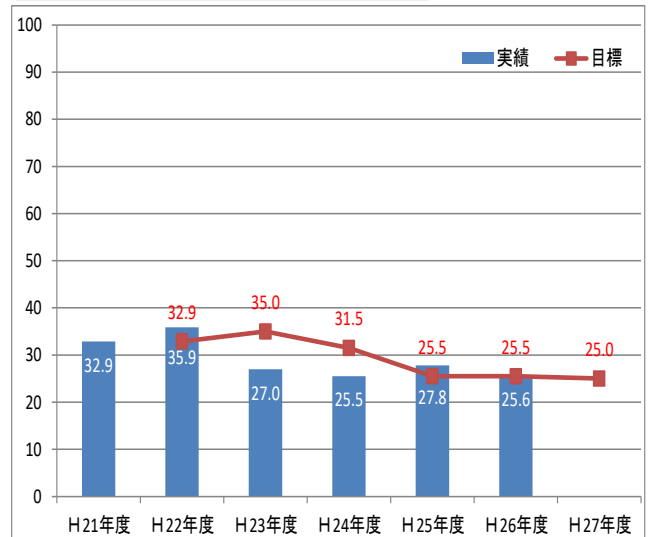
取組内容

- ①営業部や受入班と情報を共有し、ゴミの搬入状況や性状を把握する
- ②均一な攪拌により性状を安定化させて消石灰使用量を軽減させる

活動結果と評価

ゴミ搬入量や性状を把握したことで消石灰使用量を削減できた。小まめな消石灰噴霧設定値変更も効果的だった。

消石灰使用量の削減 (kg / t)



<平成 27 年度 目標 25.0 kg / t >

取組内容

消石灰設定値の小まめな変更により更なる削減を行う

「グリーン購入率の向上」

平成 26 年度 目標 70.0%/年

平成 26 年度 実績 71.5%/年

達成率 102.1%

取組内容

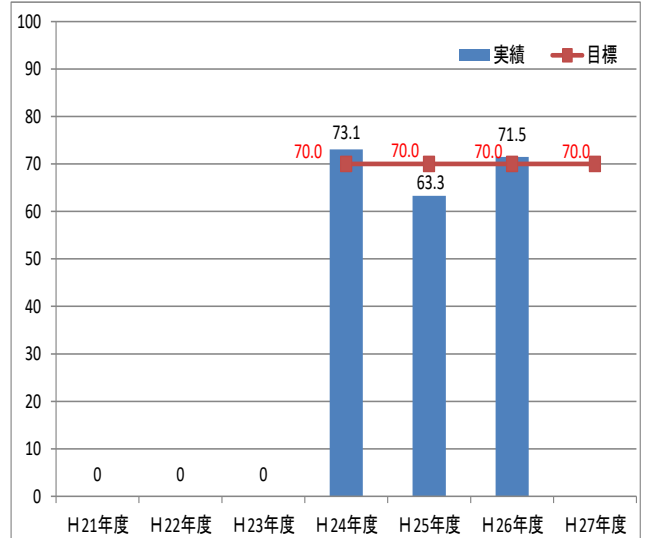
積極的にグリーン商品を購入するとともに、環境に配慮したエコリサイクル商品も進んで購入する

活動結果と評価

グリーン商品を積極的に購入していたが、商品によって購入できない物もあり、思うような実績にならなかった

※実績集計は平成 24 年度から実施

グリーン購入率の向上 (%/年)



<平成 27 年度 目標 70.0%/年>

取組内容

グリーン商品とエコリサイクル商品を積極的に購入する

10. 代表者による全体の評価と見直し

1. 結果に対する評価

平成 26 年度は 2 項目で未達となったが、活動内容については良く実施してくれたと判断する。ほとんどの項目が経費に直結する内容であり、継続して取り組んでもらいたい。

2. 全体の見直し

全体的に達成項目の件数が増えているが、各項目で見るとそれぞれの目標設定値が適切で無い部分があると感じる。もう一度内容を整理して H27 年度の目標値を設定すること。

3. 次期取組みへの指示

全体的に焼却炉の連続運転がカギとなっている。そのためにはトラブルの多い設備の改善が急務である。具体的には燃え殻搬出コンベヤが経年劣化していることでのトラブルが多いため、優先的に改善すること。

11. 環境保全活動

イベント関係

実施日	実施項目	実施内容
4月5日	施設内一斉清掃	施設内の一斉清掃活動
4月19日	クリーン九戸行動日	九戸村沿道のゴミ拾い活動
4月19日	清掃活動	最寄の県道から、施設までの村道約1.8kmの沿道の清掃活動
6月21日	草刈り作業	施設内のほか、周辺の草刈り作業
6月26日	小学校見学	九戸村立戸田小学校の4年生見学
9月6日	草刈り作業	施設内のほか、周辺の草刈り作業
10月27日	不法投棄パトロール	県北振興局主催不法投棄パトロールへ参加

セミナー・講習会

実施日	実施項目	実施内容
8月2日	エコドライブ普及員養成教習	エコドライブの講師養成教習
9月17日	安全運転管理者講習	所有社用車の管理等
9月26日	県北地域環境保全リーダー養成研修会	環境保全活動について
11月6日	エコドライブ講習	エコドライブ講習（講師として参加）
11月25日	環境コミュニケーションセミナー	環境負荷低減活動について

教育・訓練

実施日	実施項目	実施内容
5月14日	救急救命講習	二戸消防署九戸分署による指導
5月14日	安全教育	プラントメーカ（株）タクマ安全部による安全教育
5月14日	健康教育	九戸村保健衛生班の保健師による健康教育
5月14日	電気安全教育	東北電気保安協会による電気安全教育
12月12日	地震訓練	地震発生時の施設管理教育
1月17日	避難訓練・消火訓練	二戸消防署九戸分署による指導
1月30日	拡散防止訓練	廃棄物の漏洩を想定した訓練

「クリーン九戸行動日 参加」

4月19日に行われた九戸村主催の「クリーン九戸行動日」に10名が参加し、村道のゴミ拾いを実施しました。平成21年の施設開業の翌年から毎年10名以上の従業員がボランティアで参加しており、今年で5回目の参加となりました。



「 岩手県産業廃棄物協会 青年部 見学 」

9月5日に岩手県産業廃棄物協会青年部22名が来場し、施設見学を行いました。日頃から弊社に廃棄物を搬入していただいている排出事業者様や収集運搬業者様も多数参加され、適正且つ安全に廃棄物処理が行われていることを確認していただきました。

見学した方から、「大きい施設にビックリした」「最新鋭の設備により適正に処理されていることを確認できて安心した」などの声もありました。



「 県北地域環境保全リーダー養成研修会 参加 」

9月26日に行われた研修会に参加しました。公演では県境不法投棄現場の現状が話題となり、廃棄物撤去が終了しても水処理（1,4-ジオキサン処理）が継続するなど、地域の河川が汚れて生態系に悪影響を与える可能性があると感じました。個々の普段の生活においても気を付けるべき行動を良く考える必要性を感じました。



「 八幡平市衛生組合 見学 」

10月14日に八幡平市衛生組合様等48名の見学がありました。見学当日はあいにくの雨に当り、バスに乗ったまま場内を回りながら施設の説明をさせていただきました。その後中央制御室でプラントの集中制御のシステムを紹介させていただき、最新鋭の設備をもって適正且つ安全な廃棄物処理施設であることを紹介しました。



「 不法投棄パトロール 参加 」

10月27日に二戸広域振興局主催の合同不法投棄パトロールが二戸市内にて行われました。市内某所を2ヶ所周り、道路から死角となるようなところへ様々な物が投棄されているのを目の当たりにしました。

不法投棄は罰則規定も強化されていますので、正しい処分方法により適正に処理するように願うばかりです。



「 エコドライブ講習会 講師参加 」

11月6日に八幡平市で行われたエコドライブ講習に講師として参加しました。8月に受講したエコドライブ普及員養成講習を修了し、講師としての資格を取得してから今回初めての講習会指導となりました。初めは緊張しながらの説明でしたが、講習会終了後に担当した受講者から「解りやすい説明でした」と言われて一安心しました。



「 県北地域環境保全リーダー養成研修会 参加 」

11月7日に行われた研修会に参加しました。今回は「今後の森林保全活動を考える」をテーマとして岩手大学准教授の講演も聞くことができました。木材の有効活用方法やそれを用いた地域への利益の還元、今後温森林との付き合い方等について理解を深めることができました。グループ討議では自分でできる森林保護を考える良い機会となりました。



「 平成 26 年度 環境報告会 」

平成 27 年 1 月 28 日に環境報告会を開催いたしました。地域住民様を始め、排出事業者様・環境関連企業様や、岩手県・九戸村等の行政職員の方々など、多くの方にご出席いただきました。日頃より行っている環境活動の取組みとその成果などの紹介や、環境関連のセミナーや講習会への積極的参加など、環境関連の取組みを紹介させていただきました。



「 平成 26 年度 江刺家地区 環境報告会 」

平成 27 年 3 月 22 日と 27 日に江刺家地区において環境報告会を行いました。江刺家地区とは、九戸村を大きく 5 つに分けたうちの 1 地域で、弊社施設が設置されている地域です。その江刺家地区は更に 8 部落に分かれており、その各部落において環境報告会を行いました。内容は上記の環境報告会と同じですが、地域住民の方々にはより安心していただけるように、具体的な事業の内容や環境活動、地元イベントへの参加などを紹介させていただきました。「このような報告会を受けると安心できる」「是非継続して行ってほしい」「今まで知らなかった事も解った」などの意見も多く、大変有意義な報告会となりました。

「平成2年度 避難訓練・消火訓練」

平成26年12月19日に二戸消防署九戸分署による、平成26年度避難訓練と消火訓練を実施しました。毎年避難完了までの時間が短縮しており、講評でも訓練の賜物であると評価していただきました。また、消火器による消火訓練も行いました。中には初めて使用する者もあり、大変貴重な体験を行うことができました。



「地震訓練」

12月12日に震度5弱以上の大地震を想定しての第1回目の地震訓練を行いました。弊社は多くのプラント設備を設けているため、第1回目は大地震が発生した場合の設備制御について、ハード面の机上教育としました。

具体的に、ある一定以上の震度（エネルギー）を感知すると自動的に設備が緊急停止する設備と、任意で操作が必要な設備がある等、緊急対応について訓練しました。



「九戸村 産業文化まつりへ出展」

11月2日～3日に行われた産業文化まつりに出展しました。普段の事業活動や環境活動の紹介などを行いました。住民の方からゴミの搬入方法について聞く方も多かったです。また「小学生見学をしている事を初めて知った」など、廃棄物処理以外の業務も紹介する事ができました。



「小学校4年生の見学」

6月26日に九戸村立戸田小学校の4年生16名の社会科見学がありました。「一日にどれ位のゴミを燃やしているか?」「一日に何台くらいのトラックが来るか?」「ゴミを燃やす時の温度や何度くらいか?」などの質問があり、ゴミに関する勉強が沢山できたと思います。



12. 資格・免許・認定

	資 格 ・ 取 得	取得者数
E C O	エコスタッフ講習	2名
	環境社会検定試験（ECO検定）	2名
	エコドライブ講習	1名
管 理 士	産業廃棄物処理施設技術管理士	4名
	一般廃棄物処理施設技術管理士	3名
	破砕・リサイクル施設技術管理士	3名
	浄化槽管理士	1名
	2級土木施工管理士	1名
廃 棄 物 関 係	特別管理産業廃棄物管理責任者講習	3名
	産業廃棄物処理業に関する講習（処分業課程）	2名
	産業廃棄物処分業に関する講習（収集・運搬業課程）	1名
	特別管理産業廃棄物処理業に関する講習（処分業課程）	2名
	特別管理産業廃棄物処分業に関する講習（収集・運搬業課程）	1名
	産業廃棄物処理実務者研修会基礎コース	8名
車 両 免 許	第一種普通自動車免許	33名
	第一種大型自動車免許	9名
	大型特殊自動車免許	11名
	けん引第一種免許	1名
車 両 整 備	ガソリン自動車整備士2級	1名
	ガソリン自動車整備士3級	2名
	ディーゼル自動車整備士3級	1名
	シャン整備士3級	1名
ボ イ ラ 関 係	第2種ボイラ・タービン主任技術者	1名
	1級ボイラ技士	13名
	2級ボイラ技士	12名
	2ボイラ技士実技講習	17名
	ボイラ整備士	1名
	ボイラ取扱従事者安全衛生教育	1名
電 気 関 係	第一種電気工事士	1名
	第二種電気工事士	4名
	低圧電気取扱者教育	1名
	二級電気工事施工管理技士	1名

12. 資格・免許・認定

	資 格 ・ 取 得	取得者数
危険物関係	甲種防火管理者	2名
	甲種4類消防設備士	1名
	乙種第1類危険物取扱者	1名
	乙種第2類危険物取扱者	1名
	乙種第3類危険物取扱者	1名
	乙種第4類危険物取扱者	15名
	乙種第5類危険物取扱者	2名
	乙種第6類危険物取扱者	1名
技能講習	車両系建設機械（整地等）	26名
	車両系建設機械（解体）※特例講習含む	26名
	フォークリフト技能講習	26名
	玉掛け技能講習	11名
	ガス溶接技能講習	25名
	酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	24名
	有機溶剤作業主任者技能講習	7名
	特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者技能講習	5名
	特定化学物質等作業主任者技能講習	1名
	足場組立作業主任講習	1名
	乾燥設備作業主任者	1名
	コンクリート解体技能講習	1名
	小型移動式クレーン運転技能講習	7名
	床上操作式クレーン運転技能講習	2名
クレーン運転業務特別教育	27名	
特別教育	ダイオキシン類ばく露防止特別教育	1名
	ダイオキシン類特別教育	28名
	安全衛生推進者養成講習	2名
	安全衛生推進者能力向上教育	1名
	第2種酸素欠乏等危険作業特別教育	1名
	アーク溶接特別教育	19名
	粉じん作業特別教育	1名
	ローラー運転業務に係る特別教育	1名
	チェーンソー伐木業務特別教育	1名
	普通救急救命講習	29名
	自由研削用といし作業特別教育	6名
刈払い機作業安全衛生教育	2名	

【所在地案内図】



いわて県北クリーン株式会社
(Iwate-Kenpoku Clean Co.,Ltd.)